令和元年度
下水道に関する人身事故発生状況について
（令和元年 10 月末現在）

１．　総括

２．　維持管理作業

３．　工事

国土交通省　水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故発生状況（総括）

（令和元年10月末現在）

令和元年度　　（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2. 負傷事故	1 (3)	1 (3)	1 (2)	3 (4)	1 (4)	1 (4)	5 (3)	0 (4)	0 (3)	0 (2)	0 (3)	0 (2)	13 (23)	13 (37)
	合計	1 (3)	1 (3)	1 (2)	3 (4)	1 (4)	1 (4)	5 (3)	0 (4)	0 (3)	0 (2)	0 (3)	0 (2)	13 (23)	13 (37)
	累計	1 (3)	2 (6)	3 (8)	6 (12)	7 (16)	8 (20)	13 (23)	13 (27)	13 (30)	13 (32)	13 (35)	13 (37)	－	－
工事	1. 死亡事故	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	2 (0)	2 (2)
	2. 負傷事故	4 (3)	4 (4)	3 (5)	7 (14)	6 (4)	4 (5)	15 (6)	0 (10)	0 (9)	0 (9)	0 (9)	0 (3)	43 (41)	43 (81)
	合計	4 (3)	5 (4)	3 (5)	7 (14)	6 (4)	5 (5)	15 (6)	0 (10)	0 (9)	0 (9)	0 (11)	0 (3)	45 (41)	45 (83)
	累計	4 (3)	9 (7)	12 (12)	19 (26)	25 (30)	30 (35)	45 (41)	45 (51)	45 (60)	45 (69)	45 (80)	45 (83)	－	－
合計	1. 死亡事故	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	2 (0)	2 (2)
	2. 負傷事故	5 (6)	5 (7)	4 (7)	10 (18)	7 (8)	5 (9)	20 (9)	0 (14)	0 (12)	0 (11)	0 (12)	0 (5)	56 (64)	56 (118)
	合計	5 (6)	6 (7)	4 (7)	10 (18)	7 (8)	6 (9)	20 (9)	0 (14)	0 (12)	0 (11)	0 (14)	0 (5)	58 (64)	58 (120)
	累計	5 (6)	11 (13)	15 (20)	25 (38)	32 (46)	38 (55)	58 (64)	58 (78)	58 (90)	58 (101)	58 (115)	58 (120)	－	－

※下段（）書きは前年度（平成30年度）の値
※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.人身事故発生状況（維持管理作業）
（令和元年10月末現在）

令和元年度

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度合計
事業者主体	1. 都道府県	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	4	14
	2. 政令市	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	9
	3. 一般市	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	5	12
	4. 町村	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1	1	1	3	1	1	5	0	0	0	0	0	13	37
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. マンホール	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
	3. 処理場	1	1	0	2	1	1	3	0	0	0	0	0	9	22
	4. ポンプ場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	5. その他	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	5
	合計	1	1	1	3	1	1	5	0	0	0	0	0	13	37
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	1	1	1	3	1	1	5	0	0	0	0	0	13	37
	1. 墜落・転落	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4	7
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	13
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	5. 転倒	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	6
	合計	1	1	1	3	1	1	5	0	0	0	0	0	13	37
被災者数（人）	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
	2. 委託先業者	1	1	1	3	1	1	4	0	0	0	0	0	12	31
	3. 第三者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計（人）	1	1	1	3	1	1	5	0	0	0	0	0	13	37
	累計	1	2	3	6	7	8	13	13	13	13	13	13	－	－

平成30年度

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数（人）	1. 自治体職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	2. 委託先業者	3	0	1	3	4	4	3	4	3	1	3	2	31
	3. 第三者	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計（人）	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	2	37
	累計	3	6	8	12	16	20	23	27	30	32	35	37	－

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

人身事故情報データベース（維持管理作業）

令和元年10月末現在

NO.	発生年月日	事故情報				事故概要・発生防止策		被災者			
		事業主体	発生施設	事故類型		事故概要	再発防止策等	被災者	年齢	性別	被害状況
10月											
1	R1.10.3	4. 町村	マンホール	①負傷事故	2.はさまれ・巻き込まれ	水中ポンプのオイル交換作業中、クレーンで吊り上げた水中ポンプを枕木に仮置きし、排油作業を実施。排油作業完了後、オイルの注油作業実施のため、ポンプを180度回転させようとしたとき、当該作業員がポンプ下部（ベルマウス）に手をかけて回転を手伝おうとしたところ、ポンプがすべり、反動でずれた枕木とベルマウスに手が挟まれ、右手中指第一関節部を切断した。	作業前KY運動実施。 作業補助材（枕木）の適切な選定。	委託先業者	65	男	右手中指切断
2	R1.10.18	4. 町村	処理場	①負傷事故	2.はさまれ・巻き込まれ	最終沈殿池の水位が上がっていたため、返送汚泥ポンプを確認。操作盤にて、ポンプ停止後完全停止確認せずベルト点検口に手をいれたため、動いていたベルトに接触したことにより指が削られたようにを負傷した。	受注者へ安全管理の指導を実施。 受注者は作業手順書の再確認及び徹底。（現場に注意喚起用の掲示を行った）	委託先業者	36	男	右手中指先端欠損
3	R1.10.28	1. 都道府県	処理場	①負傷事故	2.はさまれ・巻き込まれ	脱水ケーキ搬出ホッパーから、落下する汚水を受けるための配管を移動させるため、上部を確認しながら作業を行っていたところ、配管のストッパー取付用台(二枚の板状)に右手人差指が挟まれ、人差指の一部(第1関節より指先側の側面)を欠損した。軍手をしていたため、欠損した一部は軍手の中に残っていた。作業手順と異なる動作をしたことによる挟まれ事故。	応急対策として、事故原因の器具を操作禁止とし、操作禁止札を掲示。汚水の滴下部にはバケツを置き、溜まったら側溝に排水。 処理場内の挟まれ事故発生危険箇所の点検及び作業手順の再教育。 恒久対策として、事故の原因となった器具の改修。	委託先業者	39	男	右手人差指欠損
4	R1.10.29	2. 政令市	処理場	①負傷事故	5.転倒	上下水道局職員が水処理センター構内を巡視点検していた際、雨で濡れていた反応タンク上部に設置してあるステンレス板で滑って転倒。転倒した際に左肩を強打し、骨折した。	再発防止策は検討中。	自治体職員	59	男	左上腕骨大結節骨折
5	R1.10.31	3. 一般市	その他	①負傷事故	2.はさまれ・巻き込まれ	水路の竹伐採作業において、伐採後の竹を民間駐車場内（平坦部）で収集車へ積込中に手が巻き込まれた。2人体制で作業をしていて、1人は収集車のボタン操作をしていた。巻き込まれる際に緊急停止ボタンを押したが間に合わなかった。 声掛け合図をせず作業し機械を操作していた事が原因である。	事故当日、業務責任者と再発防止策について確認を行い、清掃業者にて作業手順の再確認の教育を行った。今後定期的に事故防止に対するミーティングを行う。	委託先業者	58	男	右手指5本骨折、手の平裂傷し神経切断

3.事故発生状況（工事）

（令和元年10月末現在）

令和元年度

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度合計
事業者主体	1. 都道府県	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	11
	2. 政令市	3	6	2	4	2	2	6	0	0	0	0	0	25	43
	3. 一般市	2	3	0	5	6	6	7	0	0	0	0	0	29	65
	4. 町村	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	3	7
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6	10	3	10	8	8	16	0	0	0	0	0	61	126
工事分類	1. 管きょ開削	1	9	0	5	6	6	7	0	0	0	0	0	34	79
	2. 管きょ推進	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	6	13
	3. 管きょシールド	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4	7
	4. 管きょその他	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5	9
	5. 処ポ土木建築	1	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	8	7
	6. 処ポ機械電気	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	10
	7. 処ポその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	6	10	3	10	8	8	16	0	0	0	0	0	61	126
事故類型	1. 墜落・転落	1	0	2	0	1	1	5	0	0	0	0	0	10	25
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	1	0	3	2	3	5	0	0	0	0	0	14	13
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	9
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	5. 転倒	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11
	6. 激突	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2
	7. 土砂崩壊	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4	5
	8. 交通事故	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害（人身）	3	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	8	4
	12-2. 公衆災害（物損）	2	5	0	3	2	3	1	0	0	0	0	0	16	42
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7
	合計	6	10	3	10	8	8	16	0	0	0	0	0	61	126
被災者数（人）	1. 死亡	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2
	2. 重傷	1	2	2	4	6	4	13	0	0	0	0	0	32	70
	3. 軽傷	3	2	1	6	0	0	3	0	0	0	0	0	15	19
	合計（人）	4	5	3	10	6	5	16	0	0	0	0	0	49	91
	累計	4	9	12	22	28	33	49	49	49	49	49	49	－	－
その他（民間発注工事など）															
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

平成30年度

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数（人）	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	2. 重傷	2	4	5	10	3	5	5	8	10	7	8	3	70
	3. 軽傷	1	1	1	9	1	0	1	2	0	2	1	0	19
	合計（人）	3	5	6	19	4	5	6	10	10	9	11	3	91
	累計	3	8	14	33	37	42	48	58	68	77	88	91	－
その他（民間発注工事など）														
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

事故情報データベース（工事）

令和元年10月末現在

NO.	発生年月日				事故情報			被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
10月										
1	R1.10.1	3.一般市	3.管きょシールド	清掃作業	現場内	コンクリート投入口からスクリュ-クリート内の清掃作業を行っていたところ、安全ブロックの引寄せロープがスクリュークリート内の攪拌翼に巻き込まれ、被災者がコンクリート投入口に挟まれ締め付けられた。	2.はさまれ・巻き込まれ	31	男	第2頸椎骨折 心停止 低酸素脳症
2	R1.10.2	2.政令市	1.管きょ開削	掘削	現場内	下水道管布設のため掘削を行っていたところ、バックホウでガス引込管φ25を損傷した。	12-2.公衆災害（物損）			ガス管損傷
3	R1.10.5	3.一般市	5.処ポ土木建築	－	現場内	流入ポンプ棟の地下二階底板から地上の作業員休憩所へ戻る際、正規のルートを通らず、支保工をよじ登って地上に出ようとしたところ、地下一階の中間スラブから約4m下の足場まで転落した。	1.墜落・転落	51	男	右尺骨開放骨折 右肩鎖骨関節脱臼
4	R1.10.6	2.政令市	1.管きょ開削	試掘	現場内	試掘作業中、コーンバーを設置していなかったところから一般市民が占用帯内に進入し、撤去していた舗装の段差に躓き転倒した。	12-1.公衆災害（人身）	34	女	全身打撲
5	R1.10.10	3.一般市	1.管きょ開削	埋戻し工	現場内	ダンプからの土砂搬出作業が完了し、被災者が土砂の残量を確認するためにダンプの方へ行こうとしたところ、バックホウに足を轢かれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	61	男	足の甲骨折
6	R1.10.11	3.一般市	1.管きょ開削	埋戻し工	現場内	立坑とマンホールの間の埋戻し作業の際、マンホール内に土砂が入らないように、養生用のコンパネで開口部に蓋をしていた。 被災者がコンパネ上の土砂を清掃しようとコンパネに体重を掛けたところ、コンパネが破損し、5.5m下の中間スラブまで落下した。	1.墜落・転落	41	男	腰椎破裂骨折
7	R1.10.15	2.政令市	5.処ポ土木建築	－	現場内	資材置場にて資材を取出す際、単管に左目をぶつけて負傷した。	6.激突	63	男	左角膜穿孔
8	R1.10.16	3.一般市	5.処ポ土木建築	杭打ち	現場内	杭掘削工事において、ケーシングの接続作業をしていた被災者の頭上でグラブハンマーによる掘削作業を開始したため、こぼれ落ちた土砂が6m下の被災者の頭部へ飛来した。	3.飛来・落下	22	男	左目眼底骨折 下顎骨骨折
9	R1.10.17	3.一般市	1.管きょ開削	掘削	現場内	掘削作業中、掘削位置確認のため、被災者がキャタピラに左手を添えて覗き込んでいたところ、バックホウが後方へ移動したため、左手(手袋着用)がキャタピラに巻き込まれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	46	男	左手小指第一関節上2/3切断
10	R1.10.22	3.一般市	5.処ポ土木建築	－	現場内	1階から地下1階への資材の移動作業中、被災者が扉を閉めようとした際に、扉が風にあおられ、扉と壁の間に左手薬指を挟んでしまった。	2.はさまれ・巻き込まれ	67	男	左手薬指 先端損傷、骨折
11	R1.10.22	2.政令市	3.管きょシールド	解体作業	現場内	作業床の解体撤去中、被災者が鋼材の切断を完了し、1.7m下の作業床へ降りようとしたところ、バランスを崩して落下し、その影響で一緒に落下した鋼材が頭部にあたり被災した。	1.墜落・転落	52	男	首,頸椎の 脱臼、骨折
12	R1.10.23	1.都道府県	5.処ポ土木建築	吊上げ	現場内	コンクリート養生のため，被災者がロープを用いて人力で養生マットを吊上げていたところ，足場から約5.3m下の地上に転落した。	1.墜落・転落	65	男	脊椎骨折
13	R1.10.23	4.町村	1.管きょ開削	土留工	現場内	下水道管の布設工事において、マンホールの設置を終え、管路部分の矢板の設置作業中に土砂が崩落し、坑内にいた被災者の左足首が崩落土に巻き込まれた。	7.土砂崩壊	49	男	左足首骨折
14	R1.10.26	3.一般市	5.処ポ土木建築	－	現場内	資材搬出に際し、仮設の一部を一時的に撤去したところ、撤去した単管に支えられていた作業床に被災者が乗り、作業床とともに落下した。	1.墜落・転落	38	男	左第4、第5中手骨骨折、左肘挫傷
15	R1.10.27	4.町村	1.管きょ開削	－	現場内	一般市民4名が連なって、車道を自転車で走行していたところ、1名の自転車の前輪が覆工板の隙間にはさまり転倒した。その影響でもう1名が転倒し、計2名の一般市民が被災した。	12-1.公衆災害（人身）	19 60	男 男	左下顎骨骨折、右口唇部及び顎で7針の縫合、右肩、両腕軽い擦過傷、腰部打撲 左腕および左膝付近の擦過傷、左指先擦過傷、左太もも打撲
16	R1.10.30	3.一般市	6.処ポ機械電気	配線撤去	現場内	被災者が汚泥濃縮槽に設置している汚泥界面計の配線を撤去していたところ、濃縮槽汚泥掻き寄せ機の運転を停止していなかったため、回転して来た掻き寄せ機上部と覆蓋部にひじを挟んだ。	2.はさまれ・巻き込まれ	35	男	左上腕筋挫傷、左腕橈骨筋断裂

令和元年度
下水道に関する水質事故等発生状況について
（令和元年 10 月末現在）

国土交通省　水管理・国土保全局
下水道部

水質事故等発生状況
（令和元年10月末現在）

［総括］

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	水質事故等　合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	0 (4)	0 (3)	0 (5)	0 (3)	0 (1)	24 (52)
	累計	1 (4)	3 (10)	6 (12)	11 (21)	18 (24)	19 (32)	24 (36)	24 (40)	24 (43)	24 (48)	24 (51)	24 (52)	－ －

［内訳］

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	1 (1)	0 (1)	1 (0)	2 (4)	0 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (3)	0 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (1)	6 (16)
	2. 政令市	0 (0)	1 (2)	1 (2)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	6 (7)
	3. 一般市	0 (3)	1 (3)	1 (0)	2 (4)	4 (1)	0 (7)	3 (2)	0 (1)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	11 (26)
	4. 町村	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	0 (4)	0 (3)	0 (5)	0 (3)	0 (1)	24 (52)
発生施設	1. 管渠	0 (1)	0 (4)	2 (1)	1 (3)	1 (0)	0 (2)	1 (2)	0 (1)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	5 (19)
	2. マンホール	0 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	3 (6)
	3. 処理場	1 (2)	1 (1)	0 (1)	2 (4)	2 (0)	1 (3)	2 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	9 (19)
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	5. その他	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	0 (2)	2 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	0 (4)	0 (3)	0 (5)	0 (3)	0 (1)	24 (52)
原因者	1. 下水道管理者（委託先含む）	1 (0)	1 (3)	2 (2)	1 (4)	3 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	8 (17)
	2. 民間事業者（一般人を含む）	0 (2)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (9)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	0 (2)	1 (1)	1 (0)	3 (4)	3 (2)	0 (7)	2 (2)	0 (1)	0 (3)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	10 (26)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	0 (4)	0 (3)	0 (5)	0 (3)	0 (1)	24 (52)
事故類型	① 悪質下水の流入（放流水質が基準に不適合）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)
	② 悪質下水の流入（放流水質が基準に適合）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (7)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (5)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	0 (2)	1 (4)	2 (2)	1 (4)	3 (0)	1 (3)	1 (1)	0 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	9 (25)
	⑥ その他事故（①～⑤以外の事故）	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (2)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (2)
	水質事故　合計	0 (2)	2 (6)	3 (2)	5 (7)	6 (1)	1 (7)	5 (4)	0 (4)	0 (2)	0 (4)	0 (3)	0 (1)	22 (43)
	その他案件	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (9)
	水質事故等　合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	0 (4)	0 (3)	0 (5)	0 (3)	0 (1)	24 (52)
状況分類	① 耐用年数経過	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (5)
	② 耐用年数以内	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (12)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (3)	1 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (17)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計
※（　）内書きは、前年度（平成30年度）の値
※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

令和元年10月末現在

NO.	発生年月日	事故情報				事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型		事故概要	事故への対応
10月							
1	R1.10.9	2. 政令市	処理場	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	放流ポンプ電気設備の改築更新工事で、2台ある動力変圧器の内、1台を停止し、新設へ切り替える作業中に、残り1台の力変圧器容量を超過する負荷が掛かかってしまい、過電流故障が発生。この故障により放流ポンプ棟動力変圧器への送電がカットされ、放流ポンプが全台停止し、緊急放流ゲートが開き、汚水が直接海域に流出した。	緊急放流ゲートを閉じ、放流先海域の調査（水質分析、目視による確認）を実施。 再発防止策としては、設備切り替え手順において、事前に十分確認を行う。施工計画書等に切り替え手順を明記し、作業内容を市の監督員と現場の作業員に周知徹底させる。
2	R1.10.25	1. 都道府県	処理場	水質事故	-	処理区域において、1日累計130㎜の降雨があり、処理場への流入水量が届出水量の2.1倍となったため、放流水の窒素とりんの含有量が水質汚濁防止法の総量規制基準値を超過した。 翌日以降は基準値以内に低下した。	最終沈殿池からの汚泥の越流が無いよう監視しながら、汚水ポンプの揚水量を調整。 流域関連市町とともに不明水対策を進めていく。
3	R1.10.26	3. 一般市	その他	水質事故	―	民間事業者において、ワクチンの原料である弱毒ポリオウイルス3 型 を含む培養液100L（ウイルス最大1013 個含む）が、適切な不活化処理(死滅させること)を施さないまま下水道に排水されたことが、発覚した。 流出したセービン株は、野生株とは異なりヒトへの病原性が極めて小さいこと、培養液は海水で非常に濃度が薄められ、ウイルスは数週間で死滅すること、また国内のポリオワクチンの予防接種率は非常に高く維持されていることから、人体への影響はないと考えられている。	事故報告を受け、民間事業者から、事故の原因や今後の対応について、聞き取りを行うとともに口頭により指導を行った。今後、原因及び再発防止策を文書による提出を求めた後、市として文書による指導を行う。 民間事業者側による採水を行い、水質検査を実施。 下水道法上における水質は、満足していることから、通常の維持管理上の問題は生じていない。 事業者側より、人体に影響が少ないと報告を受けているが、下水処理場から搬出される脱水汚泥などについては、念のため1か月程度焼却処分等（事業者側負担）を行う。
4	R1.10.29	3. 一般市	その他	水質事故	④雨水管からの悪質下水の流出	河川で油のようなものが浮いているとの連絡があり、現地確認したところ、河川に流入する雨水枝線からの油の流出を確認。 ビル解体工事に伴うボイラー燃料配管の切断時に、油が流出、油はビルの雨樋伝い側溝を通って公共下水道枝線にながれたと思われる。	河川に流入する雨水枝線に万国旗型吸着マット及びオイルフェンスを設置。雨樋流末にドラム缶を設置し、更なる流出を止めていた。公共下水道雨水枝線内にも油の流入がないことを確認し、収束判断。 再発防止策として水路に油を流さないことをお願いする内容をホームページにて継続掲載する。
5	R1.10.30	3. 一般市	管渠	水質事故	―	開削にて下水道管布設工事を施工していたところ、掘削断面内の地下水を排出していた際、掘削土の中に油が混入しており、油を含む放流水が近接する湾内に流出した。 湧水処理のためポンプ排水は常時稼働させており、掘削断面内に溜水はない状態であったため、油状物の目視での確認は困難な状況であった。 作業員は事故発生の昼過ぎに若干の油のにおいは感じていたが、においの原因が本工事によるものという認識はなく、特に監督職員への報告は行わなず、そのまま排水作業を継続したために事故が発生した。	すぐに排水を停止し、水路にオイルシートを設置。また、湾内にオイルフェンスを設置。水路内清掃及び海上油状物の除去作業を実施。油混入の掘削土については、関係法令を遵守し適正に処理予定。 再発防止策としては、工事の施工にあたり現場状況に異常が確認された際は、程度の大小によらず速やかに監督職員に報告を行うよう周知徹底を図る。また、掘削土に油状物が確認された場合は、公共水域へ流出することがないよう適正に処理を行う。